

平成26年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

上飯田地域ケアプラザ

2 事業報告

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのように行なったのか、事業計画書を基に具体的に記載してください。

地域の現状と課題について

上飯田地区：縦に細長い地域。地域活動が活発で高齢者サロンや子育てサロン、その他地域活動が活発。活動している世代が65歳以上の高齢者が主に活動しています。次代の担い手の発掘が課題です。

上飯田団地：高齢化率52%。地域の担い手も高齢者どうしで支えあいながら活動をしています。高齢者サロン等の地域活動も活発。また、連合自治会としての組織がしっかり成り立ち、自治会で見守り活動に力を入れています。

いちょう団地：外国人が多く住んでいます。日本人の高齢化率が31.8%と高齢化の問題も出てきています。いちょう団地内にあるコミュニティハウスを活動拠点として高齢者サロン等の活動が活発ですが、毎回同じ方々が参加しています。今後地域活動広めていく事も課題です。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

・26年度は、設立当時から使用していた空調設備部分の修繕を行い、デイサービスを7日間休業し、貸館事業も4日間、部屋の貸し出しを中止して利用環境の改善を図りました。今後も優先順位・緊急性に配慮し、優先順位にて施設の適正な管理を行います。

イ 効率的な運営への取組について

・ケアプラザ全体を推進するために各委員会を設置し、分担と連携した効率的な運営を行いました。

・研修委員会、感染対策委員会、避難訓練及び防災対策委員会、広報委員会、苦情及びご意見委員会、環境及びゴミ対策委員会、事故防止対策委員会等、委員会活動を行い効率的な運営を目指しました。

・法人本部で経理・労務業務を担い、業務に専念できるような運営を推進しました。

ウ 苦情受付体制について

- ・ 4 部門（通所介護部門・居宅介護部門・地域交流部門・地域包括支援センター部門）それぞれに受付担当を設置し対応しました。
- ・ 窓口に設置してあるご意見箱の活用を利用者にPRしました。
- ・ 苦情委員会を設置し、頂いた苦情を検討し改善方法を検討して、全職員へ周知できる体制を整えました。
- ・ 利用者から苦情や意見を伝える場として、年1回部署ごとに利用者アンケートを実施しました。また、利用者アンケートの結果をケアプラザ内に貼り出し公表しました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ・ 毎日、時間を決めて館内の巡回を行いました。
- ・ 夜間や休館日は、機械警備に依頼し異常の早期発見に対応しました。
- ・ 特別災害避難場所として災害時における備蓄物を整備しました。
- ・ AEDを設置し、緊急時に対応できるようにAEDの使い方について職員研修を行いました。
- ・ 自衛消防隊を組織し、年2回のデイサービス利用者・会場利用者も含めた避難訓練を実施しました。また、今年度より、上飯田団地第2住宅の住民と合同で避難訓練を実施しました。
- ・ 館内に泉警察署からの防犯情報チラシを提示し、啓発活動を行いました。

オ 事故防止への取組について

- ・ 「事故防止対策委員会」を組織し、ヒヤリハット事例を検証し、事故を未然に防ぐ取り組みを進めました。
- ・ 「事故マニュアル」を作成し、事故発生時、適切に対応しました。
- ・ 職員同士の情報交換や朝夕のミーティングにおいて、経緯・内容等を報告し、改善・対応策等を協議し、情報の共有を図りました。
- ・ 職員会議で事故防止に対する対策や研修を行い、危機管理の意識統一しました。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

- ・ 全職員に個人情報取り扱い事項を周知するとともに、個人情報保護に関する内部研修を開催しました。
- ・ 配布書類は直接事業所へ持参することで、誤配布を無くしました。
- ・ 個人情報の含まれるFAXを送信する時には、ご送付を防止するために二人体制で確認しました。

キ 情報公開への取組について

- ・ 事業計画書・事業報告書は誰でも閲覧できるように窓口に掲示しました
- ・ 指定管理者及び事業者として運営規定や重要事項説明書を館内に掲示し情報公開に努めました。
- ・ 広報誌「いずみ一番館」を年3回発行しケアプラザ事業のPRを行いました。

ク 環境等への配慮及び取組について

- ・ 上飯田連合自治会で回収を行っているエコキャップ活動に協力し、CO₂削減とポリオワクチン交換の活動に協力しました。
- ・ 花壇の植栽・館内の花飾りを地域住民と協力して環境美化と景観に努めました。
- ・ 日頃から節電・節水を行い省エネに心掛けました。
- ・ 夏季は、ゴーヤ等を植えて緑のカーテンを作り館内の温度上昇を抑えて冷房を使用しました。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

常勤 3名 ・ 非常勤 2名

《目標》

- 要介護の状態に応じて、必要なサービスが提供されるよう適切なケアマネジメントを実施しました。
- 高齢者自身が目標をもって自立した生活を続けていけるよう、関係機関と連携をしながら支援しました。
- 研修会・勉強会・連絡会等を通じてケアマネジャーのスキルアップを図りました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

●

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- 高齢者が多い地域であるため、自治会・民生委員と連携して孤立を防ぐよう支援しました。
- 病院からの早期退院者が増える傾向にあり、在宅に向けて関係機関と連携を図り、安心して暮らせるよう支援しました。

《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
155	156	156	157	157	158
10月	11月	12月	1月	2月	3月
159	160	161	161	163	164

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

介護支援専門員 常勤 2名

《目標》

- 信頼・安心感を与える介護支援の実施を行いました。
- 事業所内・関係機関との連携強化及び専門技術の向上を図りました。
- 相談援助技術の向上、専門知識の習熟を行いました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- 特になし

《その他（特徴的な取組、PR等）》

《利用者目標》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
介 63 支 17	介 64 支 17	介 65 支 17	介 66 支 15	介 65 支 15	介 63 支 14
10月	11月	12月	1月	2月	3月
介 60 支 15	介 61 支 14	介 59 支 12	介 61 支 11	介 62 支 13	介 62 支 13

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 健康チェック（血圧・脈拍・体温・体重測定（月1回））
- 入浴・食事
- 日常動作訓練・レクリエーション（アクティビティー）等

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1）	638 円
（要介護2）	751 円
（要介護3）	864 円
（要介護4）	977 円
（要介護5）	1089 円

- 食費負担 750 円
- 入浴費（1回あたり） 53 円
- サービス提供体制強化加算（1回あたり） 13 円

※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9：50 ～ 16：00 （半角で入力 例 9：00～15：00）

《職員体制》

管理者	1名	調理員	5名
生活相談員	2名	運転手（送迎）	3名
看護師	2名		
介護職員	10名		

《目標》

安心・安全に配慮しながら、各個人のニーズに応えられるようにしました。
同世代との交流を楽しんで頂き、心身の健康を長期で維持できるように支援しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

毎回行う身体機能の維持向上の為の運動の他、四季折々の行事を取り入れ、心身ともに活性化していただけるように努めました。

《利用者目標（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
370	391	389	381	386	349
10月	11月	12月	1月	2月	3月
347	257	315	329	313	378

● 介護予防通所介護事業

《提供するサービス内容》

- 健康チェック（血圧・脈拍・体温・体重測定（月1回））
- 入浴・食事
- 日常動作訓練・レクリエーション（アクティビティ）等

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

- 1割負担分
 - （要支援1） 2,229 円
 - （要支援2） 4,464 円
 - 食費負担 750 円
 - サービス体制提供加算（1か月あたり） 要支援1 51円・要支援2 102円
 - 運動器機能向上加算（1か月）235円
- ※ その他、実費相当を徴収するものについては、各施設で項目を増やして記載をしてください。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 9:50 ~ 16:00 （半角で入力 例 9:00~15:00）

《職員体制》

管理者	1名	調理員	4名
生活相談員	2名	運転手（送迎）	4名
看護師	2名		
介護職員	10名		

《目標》

現状を維持しながら、無理のないように、今できることを継続していけるよう心身共に支援しました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

運動器機能訓練を中心とした、筋力維持・向上の運動を積極的に取り入れて現状が維持できるように努めました。

《利用者目標（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
17	18	18	16	14	15
10月	11月	12月	1月	2月	3月
15	17	16	14	14	15

以下、地域ケアプラザ事業実績評価との共通部分（区と協議の上、策定してください。）

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

- ・相談者の現状把握に努め、適切な情報提供・機関との連携を行い、短期的・長期的な支援を続け問題解決を行いました。（相談件数 1799件）
- ・フォーマルなサービスだけでなくインフォーマルなサービスも含め、相談者に合わせた対応を行いました。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携

- ・地域ケア会議や認知症サポーター養成講座、地域の福祉祭り等、包括と連携して開催しました。また事業に関する企画書、報告書を回覧し情報の共有を図りました。
- ・4職種で協働して専門職としての視点を活かして地域の現状を地域情報シートにまとめ、事務所内に掲示し共有しました。

3 職員体制・育成

- ・職員の資質向上を図るために、個人情報やAEDの取り扱いに関する研修や外部研修に参加しました。
- ・研修参加者は報告書を作成し、職員に回覧し情報共有を行いました。
- ・今期は、職員の欠員等はありませんでした。

4 地域福祉のネットワーク構築

- ・地区社協定例会や地域の高齢者サロンに参加し活動状況を把握しネットワーク構築に努めました。
- ・地域福祉保健計画の推進に向けてチームの一員として参加しました。
- ・日頃から地域住民と意見交換を行い、顔の見える関係作りを行いました。
- ・ケアマネジャー連絡会を通じて地域福祉のネットワーク構築を図った。
- ・上飯田子育てネットワークで地域住民を対象とした公園遊びを地域団体・関係機関と協力して開催した。

5 区行政との協働

- ・上飯田地域ケアプラザ担当3地区（上飯田町・上飯田団地・いちょう団地）における地域福祉保健計画の作成・推進等、地域支援チームの一員として計画を推進しました。
- ・高齢者見守り事業・認知症への取り組み・上飯田子育てネット・体力向上プログラム等、協働で事業を展開しました。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ・高齢者サロンや子育てサロンだけでなく、日常的な地域住民との交流している時にも地域情報の収集や情報の提供を行いました。
- ・「一番館ひろば」「かぼちゃの会」等の自主事業の参加者やボランティアに向けて地域情報の発信を行いました。
- ・「活動団体紹介シート」を館内に掲示し参加増やつながり作りを図りました。また、最新の情報が常に保てるように更新しました。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ・貸館の利用率向上や利用福祉団体が増加に向けて、地域の会合等に参加した時に会場利用の方法についての説明を行いました。
- ・子育て中の親を対象とした「ママのホットヨガ」の参加者が少なくなっているため、広報誌を通じて参加者募集を行い、活動支援を行いました。
- ・会場利用団体交流会は今年度出来なかった。

3 自主企画事業

- ・「一番館ひろば」「カラオケ一番館」「かぼちゃの会」といった自主事業を行い、高齢者の居場所作りやコミュニケーションの場を提供した。ボランティアの人数が25年度よりも増えたことで活動の幅が広がりました。
- ・地域団体と協力して、親子料理教室や公園遊び等の企画を行い子育て中の親の支援を行いました。
- ・知的障がい児の親の会「スナックルズ」を支援し、日頃の育児に関する悩みが相談できる場を提供しました。
- ・ヘルスメイトと共催で「地場野菜を使った料理教室」を開催し、ケアプラザと関わりの少ない住人に対してPRを行いました。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

- ・ボランティアの募集情報を広報誌やホームページ、館内に掲示し、地域住民にPRしました。
- ・泉区ボランティアセンターと日常的な交流を行いボランティアのコーディネートを行いました。
- ・ボランティア名簿の整備・更新を行いました。ボランティア希望者の活動内容等を考慮し活動場所の紹介を行いました。
- ・「一番館ひろば」「かぼちゃの会」等で活動しているボランティアと毎月第4金曜日に話し合いの場を設けました。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談

- ・身近な相談窓口として、多種多様な相談に対応した。
- ・遠いエリアには「出張相談会」を継続して行うことで、相談の場を知ってもらえるようになった。
個別相談や数人での質問コーナー式で気軽に話せる場を設け、地域の役員・民生委員の方との情報交換も実施した。
- ・地域で開催されるお祭りに参加。相談コーナーで事業の周知もでき、各事業への参加や民生委員との協力・関係作りにつながった。
- ・熱中症の相談では、ひとり暮らしの高齢者安否確認をして状況把握し、区と連携しながら見守り支援を行った。

地域包括支援ネットワークの構築

- ・地域に出向き、自治会・民生委員連絡会・サロン等で情報を把握し、ネットワークの必要を伝え様々な情報が入るような環境作りに取り組んだ。
民生委員が地域に周知されるよう、地域の見守りと支援の大切さの勉強会を実施。7/19、36名の参加。高齢者が民生委員に相談しやすい関係づくりを目的に「健康教室」を実施。11/9、34名の参加

実態把握

- ・相談の中から介護予防の必要性等調べて、高齢者の食事会等に参加しながら民生委員や地域の役員の方から情報収集を行い実態把握。その後、後見制度利用・予防教室への参加と高齢者支援につながった。
- ・新聞配達店・ヤクルト店等巡ることにより、地域の関係組織からの情報提供で気になる高齢者に気づく等の実態把握もできた。

2 権利擁護

権利擁護

- ・権利擁護事業では、地域に出向いて消費者被害の情報と被害を受けないための説明・講座を開催。
6/15 向ヶ原自治会館（老人会参加者対象）
9/10 上飯田団地集会所（サロン参加者対象）
9/15 上飯田団地集会所（自治会役員・地域の高齢者対象）
11/9 いちようコミュニティ（民生委員・地域の高齢者対象）
- ・消費者被害に合わないようビデオ・寸劇を入れた講座（消費生活総合センター）を開催し、身の守り方・対処の仕方を学んで頂いた。
- ・区と区内ケアプラザ共催による区民向けの「いきいきシルバー講座」を開催。成年後見制度に興味を持って知ってもらうため寸劇には包括職員も参加し、寸劇の後は行政書士による講演会を実施して周知・啓発活動を行った。（10月）
また、いちよう団地の行事と日程が重なってしまったことで、いちようエリアの参加者がいなかったため制度についての説明会をいちようコミュニティで行った。（10月）

- ・ 個別の成年後見相談会をケアプラザにて開催。4名の申込みがあり、10/29 県行政書士会が行った。11月には電話での相談受付も行った。
- * 「明寿の会」への継続参加を勧めながら、認知症理解（後見人）についての啓発・SOSネットワーク説明会を消費者被害と合わせて行った。

高齢者虐待

- ・ 成年後見サポートネットの勉強会へ参加（先生方からのアドバイス）し、関係機関・団体と連携を図った。
- ・ 区や施設・居宅と情報交換を行いながら対応、家族の孤立した介護を予防する支援を行った。

認知症

- ・ 「誰もが安心して暮らせる地域作り」に子どもも含め地域みんなで取り組むよう認知症サポーター養成講座を実施した。
 - ・ 中学生向け講座 生徒 53名参加
 - ・ 小学生向け講座 生徒 54名参加
 - ・ 小学校教職員向け講座 26名
 - ・ 地域住民対象講座 4ヶ所 延べ 59名参加
3/18 いちようコミュニティで開催予定
 - ・ 講座の開催前にキャラバンメイトで打ち合わせを行い、情報交換を行った。
- ・ 脳いきいき教室で予防講座を実施し、プログラムの支援を行った。
- ・ 各教室間及び地域サロンとの情報交換会は今後検討。

3 介護予防マネジメント

二次予防対象者把握

- ・ 相談や事業、出張相談会を通じて把握。
 - ・ 普及啓発強化事業においてチェックリストを実施し把握。
 - ・ 把握した二次予防事業対象者に対してサロン等紹介し、生活機能の維持・向上が図れるよう支援した。
- また、外出困難な高齢者に対しては区と連携し、訪問事業を実施した。

介護予防ケアマネジメント力

- 二次予防事業対象者・要支援者が目標を持って生活できるよう、地域資源等活用して支援。
- ・ 二次予防事業対象者・要支援者が生活機能の維持・向上が図れるよう、個人に関わる担当者と共通の認識を持ち支援した。
- ・ 連絡会における事業が増えたため、介護予防に関する研修会を行う機会がなく今年度は実施できなかった。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ・民生委員とケアマネの連絡会を実施し、活発な意見が交わされた。(7・8・9月)
- ・地域ケアプラザから離れている地域への出張相談会を実施(6・1月)
- ・地域のインフォーマル情報を地域住民やケアマネに情報提供した。

医療・介護の連携推進支援

- ・ケアマネと協力医との情報交換会を実施(2月)
- ・区内合同ケアマネ連絡会で神奈川県立がんセンターの後方支援担当に病院との連携について研修を開催。

ケアマネジャー支援

- ・泉区合同ケアマネ連絡会を実施。
 - 5月、地域ケア会議
 - 8月、プレゼンテーション
 - 12月、がんセンターとの連携
 - 3月、区社協について
- ・民生委員とケアマネの意見交換会
 - 7/17 いちよう団地
 - 9/20 上飯田地区
 - 11/20 上飯田団地
- ・4月、事例検討会を実施
- ・困難事例を抱えるケアマネジャーに対し、同行訪問や相談支援を3職で対応した。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

- ・地域課題の共通理解が図れるよう専門職だけでなく、地域住民を含めた地域ケア会議を開催(6/19、12/20)
- ・ケアマネ連絡会のチラシを持参し、居宅介護支援事業所へ訪問活動を実施(6・8・10月)

介護予防事業

介護予防事業

- ・普及啓発強化事業を5ヶ所の地域で実施し、延べ156名参加。今年度は3月にもう1回実施予定。
 - ケアプラザで実施予定のリズム体操は出前講座と連続講座で行った。
- ・自主グループに体力測定を実施。また、活動上の相談・支援を行った。フォローアップとして、地域で行う講座を案内し参加を呼びかけた。
 - 5/28 転倒予防教室
 - 6/15 出前講座 リズム体操
 - 11/9 ツボ講座
- ・元気づくりステーション事業は、対象グループがなかったことやステーションとしての立ち上げまでいかなかったことで、今年度は実施には至らなかったが、引き続き事業を進

めていく。

- ・連続講座を5包括と協働で6回コースで実施。上飯田ではリズム体操を行った。17名参加
- ・区と共催事業として、12/12地域サロンにて運動講座を実施した。19名参加。

その他
